復刊 いずみ

所沢図書館だより
復刊37号（通巻115号）
題字　高橋　玄洋　氏

目　次

P.1　航空資料図書等寄贈者・田中昭重さんのこと
P.2-4　講演録『現代に受け継がれる北里柴三郎　不撓不屈の精神』
P.5　郷土資料コーナーをご存じですか？
P.6　新館長あいさつ
SNS 開設のお知らせ

航空資料図書等寄贈者・田中昭重（てるしげ）さんのこと

航空資料コーナー開設に向けて(1)

荒山　彰久

元所沢航空資料調査収集する会（以下、航空調査会）副会長の田中昭重さんは、２０２１年(令和３年)３月11日に亡くなられたが、その航空資料は膨大なもので、ご自宅の３室に詰まっていた。これを田中さんのご子息秀行さんと整理し、所沢航空発祥記念館や岐阜かかみがはら航空宇宙博物館等へ、その館の関係資料を寄贈し、図書、雑誌については、筆者が２０１８年(平成30年)11月に所沢図書館で航空講演を行った縁もあって、二人で相談して、所沢図書館への寄贈を決定した。

図書約３，０００冊、雑誌約５，０００冊、航空模型約２７０機で、この寄贈を機に、所沢図書館の従来からの航空関係の図書・雑誌等と合わせて「航空資料コーナー」を企画中とのことである。

戦前この地に、わが国最初の飛行場（所沢陸軍飛行場）が建設され、現在は航空発祥記念館が設立されている。飛行場こそないが、往時を偲ぶ記念館の展示と資料コーナーが出来て、両輪が結合し、所沢の航空史への窓口が広がったといえよう。

田中さんは１９２７年(昭和２年)生まれで、旧制の早稲田大学高等工学校航空機科(夜間)に在学し、昼間、東京帝国大学航空研究所飛行機部第一部木村秀政技師の実験助手として、航空に関わっている。（戦後、在学校では電気科に移って卒業、学校は第二理工学部の前身となる。）

戦後電設会社に就職したが、所沢に航空発祥記念館建設の話が進むなかで、航空調査会が誕生、その副会長に就任した。戦後初の民間旅客機YS-11の主任設計者となった木村氏の推選によるものである。この博物館の入口にある会式一号複葉機は、田中さんが正式の設計図がないなかで、設計者徳川好敏の子息豪英氏に会って確認するなど、正確に作図され製作されている。また、同館の入口近くにある甲式一型エンジンと機体の一部は、田中さんの努力で設置された。さらに田中さんは、同館の研修室で黎明期の日本機について、何回か講演を行ったり、航空調査会編集の写真集「雄飛」の編集にも携わっている。所沢のほか、青森県三沢市にある青森県立三沢航空科学館「航研機」の実大模型製作の専門調査委員や、航空ジャーナリスト協会の会員などに参加して、航空に広い範囲で貢献していた。筆者は田中さんと知り合い、田中さんの航空遺産に触れることができたこと、また、これを無償で寄贈した秀行さんの心意気に、多少お手伝いできたことを幸せと思っている。

（写真説明）右から順に帆足孝治氏（前航空ジャーナリスト協会長）、田中昭重氏、筆者。田中氏の娘安岡礼子さん撮影（2019 年 10 月 10 日）

荒山　彰久　氏

航空史研究家・所沢航空資料調査収集する会会員。
著者『日本の空のパイオニアたち』（早稲田大学出版部刊）のほか、航空雑誌等に航空史記事を寄稿。２０１８年に所沢図書館講演会「飛行機のメッカ、所沢飛行場の歴史」の講師として登壇。

所沢図書館講演会

現代に受け継がれる　北里柴三郎

不撓不屈の精神

講師　森　孝之 氏

令和７年１月26日（日）会場　所沢市役所　８階大会議室

きたさと？　きたざと？

北里柴三郎は、１８５３年１月２９日に肥後国阿蘇郡小国郷北里村（現在の熊本県阿蘇郡小国町北里）に生まれました。土地の人たちは皆土地の名前を苗字として「北里（きたざと）」と名乗っていたため、柴三郎も「きたざと」と名乗っていました。ドイツに留学した時、ドイツ語で「ざ」は「ＺＡ」ではなく「ＳＡ」と表記することから、ドイツ人にも「キタザト」と呼んでもらうためにあえて「ＳＡ」としたのです。ドイツ人は「キタザト」と発音してくれましたが、時代が進みドイツ語から英語が主流になると、欧米人は皆「キタサト」と呼ぶようになりました。そのため、公式的には「キタサト」と発音するようになったのです。

人々の命を守るための言動

柴三郎たちが活躍していた約１３０年前の平均寿命は男性４２．８歳、女性４４．３歳と、現在の平均寿命の約半分でした。当時の主な死因は、劣悪な衛生環境による結核・コレラ・赤痢・腸チフス等の感染症でした。このような状況から、どのようにして人々の命を守っていくかということを考えるようになったのです。

具体的な行動を起こしたのが３９歳の時、１８９２年に６年間のドイツ留学を終えて日本に帰国した時です。人々の命を救うためには、公衆衛生に関する一般市民への普及活動が必要と考え、伝染病に特化した日本で最初の民間研究所「大日本私立衛生会附属伝染病研究所」を設立しました。

柴三郎の研究成果は高く評価され、１９０１年の第一回ノーベル生理学・医学賞の候補者に選ばれましたが、惜しくも受賞はできませんでした。

伝染病予防法について

伝染病に関する規則は、それまでにも避病院仮規則や虎列刺（コレラ）病予防仮規則や伝染病予防規則といったものがありましたが、見逃がされていたことも数多くありました。伝染病が発生し、その地域に交通遮断や隔離政策がとられると、感染していない人たちの生活も脅かされることから、感染者の発生を医者に届け出なくなってしまうのです。この対策として、生活困窮者への金銭的救済措置と規則を守らない人への罰則を設けることで、余分なクラスター発生を制御することができると政府は考えたのです。それらを盛り込んだ法律として１８９７年に制定された「伝染病予防法」は、１９９９年に新しい法律「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（現在の感染症法）」が制定されるまで続きました。それまで、「伝染病」としていたものが「感染症法」という法律が出来たことによって、感染症という呼び名に変わったのです。

一般市民の公衆衛生に関する普及

ワクチンのスタートは、イギリス人のジェンナーが開発した天然痘ワクチンです。これは、人と牛に共通抗原があるので、牛型の天然痘をワクチンの原料として作った薬になります。１８０２年にジェームズ・ギルレイという画家が製作した天然痘ワクチンの風刺画は、「牛から作られたワクチンを接種したら牛になる」という絵だったことから事実と異なる風評が広まってしまいました。これは、画家の科学的知識の欠如によるものでありますが、いくら良い薬を作ったとしても科学的知識がなければ、ワクチンを接

種しないだろうということがいえるのです。そこで、科学的知識の普及のために１９１１年に柴三郎は『伝染病予防撲滅法』という本を出版しました。この本は、病気を防ぐために伝染病に対する免疫が必要ということ、免疫の獲得には時間がかかるということを一般の人たちも理解できるよう専門用語を使わずに書かれています。

当時一番恐れられていた結核の予防に、啓発ポスターを作成しました。ポスターには、結核は結核菌が原因で、これを退治すれば治ること、電車・学校などの公共施設で感染のリスクがあること等を書き、全国民が一斉に取り組まなければ結核を防げないということを訴えました。

また、ポスターだけでは緊急性が伝わらないと考えた柴三郎は、ラジオ放送でも訴えました。

北里柴三郎を支えた３人

①コンスタント・ゲオルグ・ファン・マンスフェルト

柴三郎は教育熱心な母の元に生まれたこともあり、幼少期から、色々な先生に儒学を習い、多角的なモノの見方ができるようになりました。

１８７１年に入学した古城医学所兼病院（現在の熊本大学医学部）にて、伝染病から国家・国民を救うという方向性を決めましたが、そのきっかけとなったのが医学校で教鞭をとっていたマンスフェルトです。卒業後は、マンスフェルトの勧めで東京大学医学部に入り、さらなる知識の習得と技術の研鑽、そして摂生と予防の奨励、公衆衛生に対する啓発を進めました。また、東京大学医学部在学中にコレラの大流行があり、惨劇を目の当たりにしたことから行政・医師・自身の無力さを感じ、今すべきことを『医道論』に込めました。

演説原稿「医道論」表紙
出典：北里柴三郎記念博物館

柴三郎は、『医道論』において伝染病の感染拡大防止には、人々に対する教育が必要であり、一人ひとりが生命の尊さを知ること、病を未然に防ぐ方法を国民全員に理解させることが重要であると訴えています。また、医学生として病気の原因と治療には医術を徹底的に理解すること、理論・技術とも、甲乙なく徹底的に研究すること、奮発勉励に努めることを提言し、『医道論』に込めた信念を生涯持ち続けました。

②ローベルト・コッホ

コレラの大流行によって、柴三郎は日本の学問知識の低さを痛感し、治療医学を除く伝染病に関して非常に脆弱な状況だと認識しました。東京大学医学部卒業後、衛生行政の体制改善及び感染の現状把握と解明、今後の対策を講ずるために主務官庁である内務省衛生局に入局。その３年後にはこれまでの業績を評価され、ドイツへ留学することになりました。

ドイツでは、コレラ菌を発見し全世界的な細菌学者として名声を博していたコッホの下で研究を行い、１８８９年に世界中の誰もが諦めていた破傷風菌の純粋培養に世界で初めて成功しました。この純粋培養から実験を広げ、１８９０年に血清療法というジフテリア、コレラ、赤痢などに対する新たな予防治療法を確立しました。この血清療法は、柴三郎が研究者として世界に羽ばたくきっかけとなり、現在の抗体医薬の研究に引き継がれています。

破傷風の血清療法確立を記念して（１８８９年）　出典：北里柴三郎記念博物館

③福澤諭吉

世界的な研究を成し遂げた柴三郎は、伝染病を抑制するための専門的な研究機関を立ち上げるために１８９２年に日本に帰国します。この時支えとなったのが、福澤諭吉です。福澤は、柴三郎を物心両面で支援し、伝染病研究所だけはなく、結核専門病院の設立にも大きく貢献しました。また、柴三郎は福澤から

「独立心を持ち気概のある研究者人生をいかに歩むかということ」を教わりました。

１８９２年5月２８日に帰国、研究拠点としての国立機関の設立を政府に依頼しましたが、予算等の審議が必要となるため設立には時間を要しました。研究拠点の重要性と緊急性を熟知していた福澤らは、国の設立を待たずに日本で初めての伝染病研究所を設立します。

１８９９年には、伝染病研究所の業績と事業の重要性を政府が認識し、更なる基礎研究・応用実践の充実を図るために同研究所は内務省所管の国立伝染病研究所となりました。国有化と同時に痘苗や治療血清の製造施設を統合すると、国立伝染病研究所は予防医学・公衆衛生行政・研究・実践等を担うようになりました。同研究所の所長に就任した柴三郎は、「衣食住のことを完全にして病気を予防し、無病息災延命にして国家の幸福を増進すること」を研究の方針として明確化しました。

国立伝染病研究所は日本全体の研究活動の拠点となっていましたが、１９１４年に勃発した第一次世界大戦によって戦費がかさんだことから、研究の経費と人員の縮小を目的として、研究所が教育主体の文部省の所管となることとなりました。研究成果の実践応用を目指す柴三郎にとっては、方向・方針転換を迫られたことから同研究所を辞職し、「北里研究所」を創設したのです。そしてすぐさま血清療法、予防治療法の製造・供給を開始しました。「北里研究所」を創設した翌年に建物ができた際には、医学・衛生学のみならず、農業、水産、工業等にも微生物の研究を応用して国家、社会に貢献したいと強く宣言しました。

学校法人北里学園について

柴三郎は、第二次世界大戦後の日本を支える若者の教育に取り組み、北里研究所は従来の研究・医療に加え教育部門の充実を図りました。１９６２年には学校法人北里学園を設立し、現在は9学部を有する大きな学術拠点に成長しました。柴三郎の「研究成果は実践に結びつけるべき」という理念は、学園の方針として今も受け継がれています。

新札肖像に採用された要因

肖像採用条件として日本の近代化に貢献した文化人となっています。柴三郎は伝染病研究を日本に定着させ、画期的な予防治療法を確立しました。行政との連携を重視して、現在へ引き続く医療体制の土台を築いたことが新札肖像に採用された大きな要因です。また、採用条件が精密な写真や絵が残っていること、品格があり国民によく知られていること等いくつかありますが、それらを全てクリアし、今回日本を象徴するお札の顔として採用されたのです。

北里柴三郎
出典：北里柴三郎記念博物館

柴三郎の人生

柴三郎が使っていた論語の中には、「徳は孤ならず、必ずや鄰有り」というものがあります。これは、徳は孤立するものではなく、必ずよき理解者・共鳴者が現れるという意味であり、柴三郎の人生における福澤諭吉やマンスフェルト、そしてコッホ博士との出会いともとらえられます。北里柴三郎を二つの言葉で表すとすれば、一つは「自分の信念に忠実で容易に人の意に屈しない意気を持つ人」、もう一つは「困難にくじけない強い意気を持つ人」といえます。新札発行を機に、彼らのエネルギーを受け継ぎ、日本がより活性化されることを期待しています。国家の繁栄は、国民一人ひとりの幸せにつながるという彼の価値観を今後も再認識したいと考えています。

森　孝之氏

横浜市出身。医学博士。１９７９年に社団法人北里研究所入所。ウイルス研究部を経て２００８年に学校法人北里研究所北里柴三郎記念室へ異動。２０２０年3月に退職後、北里柴三郎記念博物館にて勤務。関連資料の調査・研究・保全・保管並び展示室での一般公開等の業務に従事する一方、北里博士の生涯を医学史の観点から研究している。

～郷土資料コーナーをご存じですか？～

◆はじめに◆

皆さんは、本館3階参考図書室の郷土資料コーナーを利用されたことがありますか？所沢市史や、ゼンリンの住宅地図が置いてあるところというとイメージしやすいかもしれません。郷土資料は、話題の小説や、最新雑誌に比べて派手さはありませんが、利用者の方のなかには郷土資料を求めて、いろいろな図書館を巡っている方もいらっしゃいます。今回は、そんな郷土資料にスポットをあてて、その魅力と、収集の仕事についてご案内いたします。

◆郷土資料とは◆

図書館法では、「郷土資料」「地方行政資料（※）」を合わせて、地域資料として扱います。地域資料の保存の歴史は古く、さかのぼると、戦後の農地改革や社会改革によって散逸しつつあった文書や原資料の収集に始まるとされます。現在ではこの機能を文書館が担っている自治体もあります。所沢図書館では、郷土資料について「所沢のことがわかる資料」と捉えて、「地方行政資料」をはじめ「出版物」や「地域関係資料（雑誌・チラシ等）」を幅広く収集しています。本館3階参考図書室の約半分が「郷土資料コーナー」になっており、各分館にも棚を設けています。

※「地方行政資料」＝自治体や外郭団体が刊行・作成した資料

◆郷土資料コーナーについて◆

「郷土資料コーナー」は大きく、所沢市と埼玉県に分かれています。『所沢市史』や所沢市の各種計画書などの所沢市刊行物をはじめ、埼玉県に関する資料も収集しており、『埼玉県史』のほか近隣の自治体の市町村史は利用頻度が高いです。また、ガイドブックなど一般販売されているものも所蔵しています。

◆ゆかりの作家◆

所沢図書館では、「郷土資料」の一つとして、所沢にゆかりのある作家の出版物の収集に力を入れています。

「ゆかりの作家」とは、所沢生まれの方や在住の方、以前住んでいた方としています。みなさんも、書店やインターネットで所沢の「ゆかりの作家」らしい人の情報を見聞きされたときは、ぜひ図書館にご連絡ください。

◆郷土資料収集の仕事と課題◆

郷土資料収集の仕事は、一般に流通していない資料の情報を収集し、寄贈していただいた資料を受け入れる作業がメインとなります。受け入れとは、資料の書誌データ(※)を作成し、バーコードや分類ラベルを貼り、閲覧できる状態にする作業です。重要な「地方行政資料」は本館・分館各1冊ずつ置けるように整理します。また、資料は寄贈のほかに、職員があちこちでみつけてくることもあります。貴重な資料がみつかったときはとても楽しいです。郷土資料の魅力はその希少性であるといえます。

「郷土資料」の課題としては、例えば、あまり認知されていないことが挙げられます。多くの図書館が収集と保存に力を入れている反面、その周知が足りないとされています。所沢図書館でも、今後、「郷土資料」「ゆかりの作家」を多くの皆様に知って活用していただけるよう積極的にアピールしていきます。是非皆さんも一度手に取ってご覧いただければと思います。

※書誌データ＝検索用のデータ

参考図書室のご案内

＊令和６年度　図書館要覧より

●開架冊数

参考図書　約８，９００冊
所沢市郷土資料　約２，４００冊
埼玉県郷土資料　約４，６００冊
寄贈郷土パンフレット類等５９誌

●設　備

利用者用端末機　１台
インターネット用端末機　３台
コピー機　１台
　モノクロ１枚　１０円
　カラー１枚　５０円
拡大読書機　１台
閲覧席　２０席
（インターネット閲覧専用　３席含む）
＊コピーは著作権法により制限があります。

●契約データベース（新聞）

朝日新聞クロスサーチ
ヨミダス（読売新聞データベース）
日経テレコン
＊埼玉版を調べることができるので、郷土資料と照らし合わせて使うと調査の幅が広がります。

新館長あいさつ

所沢市立所沢図書館長　中村まさみ

令和７年４月から、所沢図書館担当参事兼所沢図書館長を務めております中村と申します。図書館への配属は、今回が三度目となります。

館内でお会いする市民の方から、笑顔とともに「戻られたのね」とお声をかけていただくこともあり、大変ありがたく思っております。

また新たな気持ちで、市民の皆様にとって、より良い図書館となるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私が図書館から離れていた数年は、感染症流行の時期でもありました。社会や生活様式が大きく変わり、在宅や個人で情報にアクセスすることが日常になったと感じます。

自分のスマホやパソコンから、インターネット上の情報に、すぐ触れられるのは大変便利なことです。

しかし、膨大な情報のすべてに目を通すのは不可能なことです。そのため、検索や閲覧の履歴から、関心のありそうな情報が優先的に表示される機能が使われています。

これはとても効率的な機能ですが、一方で、自分に都合の良い情報ばかりが目に入り、「フィルターバブル」や「エコーチェンバー」といった、視野や思考の幅が狭くなってしまう状態に陥る懸念があります。

もし、そんな気配を感じた時は、ぜひ図書館へおいでください。

図書館には、あらゆる分野、様々な視点の蔵書・情報が集められています。図書館を通して、新たな知識・世界を知るきっかけが得られるかもしれません。

昨年度、所沢図書館では「第３次所沢市図書館ビジョン」を策定し、時代の変化に対応したサービスの提供に努めています。

調べもの、読書、「何となく…」のご来館も大歓迎です。小さなお子様から高齢の方まで、皆様が気軽に図書館を訪れて、居心地よく過ごしていただきたいと思っています。

〝あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である〟というのは、アインシュタインの言葉です。

どうぞ皆様にも、所沢市内にある８館の図書館の場所を知っていただき、ご利用いただければ幸いです。

＼図書館公式SNS開設／

この度、所沢市立所沢図書館の公式SNS（X、Facebook、Instagram）を開設しました！

アカウント名：【公式】所沢市立所沢図書館
ＩＤ　　：toko_library

X（旧 Twitter）

Instagram

Facebook

↓↓ＳＮＳでは、以下の情報をお届けします↓↓

★おはなし会・講演・講座などのイベント情報
★ブックリスト・今月の図書館・パスファインダー等の発行情報
★その他図書館に関する様々な情報

ぜひ、フォローして図書館ご利用の際にお役立てください！

編集発行：所沢市立所沢図書館
〒359-0042　所沢市並木 1-13
～ ホームページアドレス ～
パ　ソ　コ　ン　https://www.tokorozawa-library.jp/
スマートフォン　https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP
～ 電話 / FAX ～

本　　館	04-2995-6311 / 04-2992-1421	富岡分館	04-2943-3636 / 04-2943-6680
所沢分館	04-2923-1243 / 04-2928-8195	吾妻分館	04-2924-0249 / 04-2928-8250
椿峰分館	04-2924-8041 / 04-2928-8148	柳瀬分館	04-2944-4023 / 04-2945-7236
狭山ケ丘分館	04-2949-1193 / 04-2949-8577	新所沢分館	04-2929-1905 / 04-2929-1906
松井小学校図書館	04-2992-2796 / 04-2992-2797		

２０２５年８月３１日発行　復刊いずみ３７号（通巻１１５号）